

イングリット・フジコ・ヘミング & モスクワ・フィルハーモニー交響楽団

Ingrid Fuzjko Hemming &
Moscow Philharmonic Orchestra Conducted by Yuri Simonov

フジコ・ヘミング

Ingrid Fuzjko Hemming

スウェーデン人建築家ジョスタ・ゲオルギー・ヘミングと日本人の母とを両親としてベルリンに生まれる。母の指導で幼い頃からピアノを始めた。10歳の時、レオニード・クロイツァーにつき多大な影響を受ける。その時クロイツァーは彼女が将来世界中の人々を魅惑するピアニストになるだろうと予言をしていた。青山学院・東京芸術大学をへて、NHK毎日コンクール受賞、日本フィルなど数多くのオーケストラと競演、来日中のサムソン・フランソワはフジ子のショパンとリストを聴き絶賛。その後、ベルリン国立音楽学校を首席で入学。その後、ウィーンに移り、後見人でもあったパウル・パドゥラ＝スコダに師事。今世紀最大の作曲家、指揮者の一人といわれるブルーノ・マデルナにウィーンで才能を認められ、彼のソリストとして契約したことは彼女が最も誇りとしているところのひとつである。ちなみにこの成約に際しては、彼女の演奏に感銘を受けたレナード・バーンスタインからの支持、援助があった。1968年ドイツの"Die Welt"誌は「ショパンとリストを弾くために生まれてきたピアニスト」、「日本から新しいピアニストが出た」と報じている。そして、フジコ・ヘミングはウィーンでの演奏会直前に聴力を失う。1999年NHKで放映されたETV特集「フジ子～ピアニストの軌跡」は大反響を呼び、再放送の回数を重ねた。デビュー・アルバム”奇跡のキャンペラ”はクラシック界では異例の300万の大ヒットとなる。4回のゴールド・ディスク大賞などは前代未聞である。

現在ロイヤル・フィル、モスクワ・フィル、ハンガリーフィル、イングリッシュ・チェンバー・オーケストラ、ミュンヘン交響楽団などと国内外で共演を続けている。また彼女は音楽活動のみにとどまらず、米国同時多発テロ後の被災者救済のために年間CDセールス印税全額寄付やアフガニスタン難民のためのチャリティー活動、特に動物愛護へ深い関心を持ち、援助を長年つづけている。

今回ソリストとしてお呼び頂いた事を嬉しく思っています。
モスクワフィルのクラシック音楽は素晴らしい
をもちたいほどおぼえています。

Fuzjko Hemming



ユーリ・シモノフ

Yuri Simonov

ブラス・セクションを大きく鳴らし、打楽器を炸裂させるシモノフの重量感のある音楽のファンは日本でも数多い。演奏曲目は幅広く、チャイコフスキーやラフマニノフ等のロシア系はもとより、モーツァルトやベートーヴェンに始まり、マーラーからイタリア・オペラに至るまで、多彩なレパートリーを獲得している。1941年ロシア・サラトフ州生まれ。レニングラード音楽院で学び、1966年全ソ連指揮者コンクールにて優勝。1968年ローマ・サンタチェチーリア指揮者コンクールで優勝。その後レニングラードフィルハーモニー交響楽団にてムラヴィンスキーの助手をつとめる。1969年ボリショイ歌劇場に招かれ「アイダ」でデビュー。1985年まで首席指揮者を努め、当歌劇場では最長の任期であった。1998年モスクワ・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者に就任。モスクワ・フィルを伴っての日本への来日は多く、NHK交響楽団にも客演している。ロシア功労芸術家(1971)、ロシア人民芸術家(1976)、ソ連人民芸術家(1981)。



モスクワ・フィルハーモニー交響楽団

Moscow Philharmonic Orchestra

第2次世界大戦の後、ロシア政府はレニングラード・フィルのライバルとなるオーケストラを首都モスクワに設置することを目的に優秀なプレイヤーを集め、1951年モスクワ・フィルハーモニー管弦楽団を発足させました。音楽監督にはロシアで有名な指揮者キリル・コンドラシンが任命され、コンドラシンと親交のあった作曲家ショスタコービッチの後期交響曲の数々を初演しました。それによって楽団は世界的に話題的となり、ストラヴィンスキー、ペンデレツキを初めとして、当時の西洋音楽界はこの新しい楽団に多大な関心を寄せました。客演は現在に至るまで、ザンデルリンク、コンヴィチュニー、マゼール、メータ、ソリストにはルービンシュタイン、スターン、メニューイン、ゴールド、ポリニ、ミケランジェリ、リヒテル、ギリリス、ロストロポーヴィッチといった錚々たる面々が名を連ねています。現在はユーリ・シモノフが首席指揮者に就任、国内はもとより、世界でも積極的にコンサートを開催しています。

